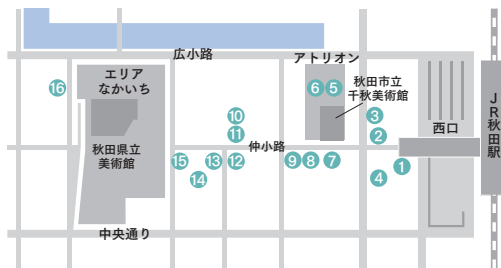


仲小路商店街

お得な半券サービス

秋田県立美術館と千秋美術館をつなぐ仲小路商店街。どちらかの美術館で展覧会を鑑賞し、半券（両館のバースポートも可）を対象店舗で提示すると、各種サービスを受けられます。「アートな街」をお得にお楽しみください。



	店舗名	サービス内容
1	プリモカワカミ (フォンテAKITA1階)	フォンテポイント2倍
2	無限堂 秋田駅前店	お食事の方にワンドリンクサービス
3	一乃穂本店	ご購入の方にご試食品進呈
4	カフェ ラ ドゥ café La Doux (クロッセ秋田2階)	食事後のワンドリンクサービス
5	秋田県産品プラザ	5%割引 (一部対象外)

	店舗名	サービス内容
6	札幌かに本家 秋田店	お食事の方5%割引 (現金のお支払で)
7	ブランジーノ アキタ Branzi-no Akita	お食事の方にデザートサービス
8	そば処 四季	飲食代5%割引
9	レモンの部屋	5%割引 (一部対象外)
10	ティールーム陶	100円引き (平日ランチは除く)
11	食器のさかいだ	5%割引 (一部対象外)
12	Kコレクション&レガロ	ポイント2倍サービス
13	仲小路 コーヒー&ワイン	1,000円以上の飲食で5%割引
14	親鶏らぁ麺 いし川	トッピング1品サービス
15	川口呉服	5%割引 (サービス品除く)
16	ダイニングレストラン ザ・キャッスル (秋田キャッスルホテル1階)	ご利用金額の5%割引

秋田市立千秋美術館

開館時間 ● 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)
観覧料 ● 常設展 一般310円 大学生210円
高校生以下無料
休館日 ● 2024年12月25日(水)～2025年1月9日(木)、
2月10日(月)～14日(金)、2月23日(日)
〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8 (アトリオン内)
TEL.018-836-7860 FAX.018-836-7862

秋田県立美術館

開館時間 ● 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)
観覧料 ● 展覧会ごとに異なる
休館日 ● 2024年12月16日(月)～20日(金)、12月31
日(火)～2025年1月2日(木)、3月10日(月)
～19日(水)
〒010-0001 秋田市中通一丁目4-2 (エリアなかいち内)
TEL.018-853-8686 FAX.018-836-0877



編集 ● 秋田市artlineプロジェクト実行委員会

秋田市立千秋美術館
秋田県立美術館指定管理者(公財)平野政吉美術財団
仲小路振興会

発行 ● 2024年11月

表紙画像: 上段左から 小田野直武《児童愛犬図》江戸時代、岡田謙三《朱》1962年、亜欧堂田善《両国図》江戸時代、小田野直武《笹に白兔図》江戸時代、谷文晁《金碧山水図》1803年、佐竹曙山《岩に牡丹図》江戸時代、木村伊兵衛《子供たち・秋田市仁井田》1952年、浜松小源太《ボオズ(B)》1930年代後半、亜欧堂田善《両国図》江戸時代、木村伊兵衛《おぼこ・大曲》1953年、佐竹曙山《蝦蟇仙人図》江戸時代、平福穂庵《乳虎》1890年(全て部分・秋田市立千秋美術館蔵)



News from the Museums of Art

artline

特集

美術の扉 千秋美術館コレクション

2024.11

企画展 藤田嗣治 言葉をつむぐ

【会 期】 2024年12月21日(土) — 2025年4月13日(日)(予定)

【会 場】 秋田県立美術館 3Fギャラリー

【観 覧 料】 一般310円(250円)、シニア280円(250円)、学生210円(170円)

※()内は20名以上の団体料金、シニアは70歳以上 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳(ミライロID可)を持参の方と付添1名は無料 ※秋田市立千秋美術館の観覧券(半券可)をご提示の方は団体料金

【主 催】 秋田県立美術館(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)

藤田嗣治は絵を描くかわら、執筆活動を行うなどして多くの言葉を残しました。それは、世界各国を渡り歩いた藤田が書き記した旅行記をはじめ、日記や手紙、雑誌への寄稿など幅広いジャンルにわたっています。画家として数多くの作品を制作した藤田ですが、彼が関心をもった物事、心を寄せた情景などが言葉という形で今に伝わっています。

本展では、藤田作品とともに、画家の人となりや伝わる藤田の言葉を紹介し、藤田の持つ独特の嗜好や個性から生まれた文章は、読む人を引き込み、目の前に藤田の様々な姿を垣間見せてくれます。画業と並行して紡いだ多くの言葉からうかがえる彼自身の心境や関心を寄せた事象へのまなざしにも注目します。



藤田嗣治《私の画室》1938年 油彩・カンヴァス

1920年代のフランス・パリで華々しい活躍をした藤田は、1933年に日本へ帰国すると、約20年振りとなる日本での生活をはじめました。その間、複数の住まいを渡り歩いています。本作に描かれているのは、1937年、東京・麹町に新築した自宅兼アトリエの様子。和室の奥に仕事机があるほか、鉛筆筒や茶道具柄の筒描きなどの調度品が並び、中央には囲炉裏が置かれています。帰国後の藤田は日本らしいモチーフを描くのと同時に、久しぶりの日本に対する関心の高さを自著の随筆や雑誌など文字においても書き残しています。

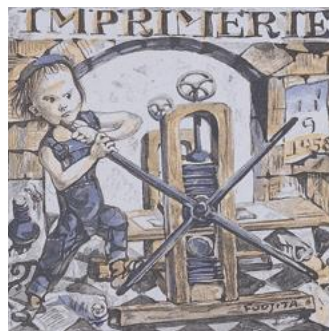
藤田嗣治『小さな職人と商人』より《印刷工》

1960年 木口木版・紙

藤田は晩年になると子どもを描いた作品を多く手がけました。自身に子どもがいなかった藤田にとって、「私の画の小共が私の息子なり娘なりで一番愛したい小共」(夏堀全弘『藤田嗣治芸術試論:藤田嗣治直話』2004年)だったといえます。本作は、パリで働く人々を子どもの姿に託して描いた連作中の一点。職人や商人に向けた藤田の敬意や暖かいまなざし、そして画家の遊び心を感じる作品です。

作品はすべて公益財団法人平野政吉美術財団蔵

©Fondation Foujita / ADAGP, Paris&JASPAR, Tokyo, 2024 E5786



関連イベント

●学芸員によるギャラリートーク

【日時】 12月28日(土)、
2025年1月18日(土)、2月16日(日)
各日ともに14:00~14:30

【講師】 秋田県立美術館学芸員

【会場】 秋田県立美術館 3Fギャラリー

観覧券または年間パスポートをご持参ください。

2024 ハロウィンウォーク in 秋田市仲小路 レポート

爽やかな秋晴れとなった10月26日(土)、仲小路商店街ではハロウィンイベントが開催され、約500人が参加しました。午前10時の開始から、思い思いに仮装した子どもたちの姿があちこちで見られ、商店街全体がハロウィンモード。参加者は、「トリック オア トリート」と言いながら、協力店舗11店をまわり、たくさんのお菓子を手にしていました。5カ所に設けられたフォトスポットをはじめ、明德館高校や秋田駅、アルスなどで行われたコラボイベントも多くの人で賑わい、大盛況の1日でした。



学芸員リレーコラム

仲小路でアートを探そう(第21回)

今年の夏も猛暑が長く続き、暦の上では秋の終わりが近づいた頃になっても強い日差しが降り注いでいた。10月に入るとようやく涼しくなりはじめ、過ごしやすい秋の陽気を感じる日が訪れている。季節の変わり目は身の回りにある自然の特徴を強く感じやすい時期だが、それは気候だけではなく目に見える形で現れてくる。町中でも、木々の葉の色の変化や自由に飛んでいるトンボの姿、そして夜長の空に輝く月や星などが秋の訪れを知らせてくれる。これら四季の移り変わりに愛でる花鳥風月は、古今多くの人のインスピレーションを刺激し、数々の絵画や彫刻、詩の題材となったり鎧兜の装飾や家紋のモチーフになったりや色々な形で表現された。天気の良い日は自然と触れあい、湧き上がった思いに形を与えてみるのも面白いかもしれない。(秋田県立美術館・小泉)



[1期] 秋田蘭画・岡田謙三

2024年11月23日(土) — 12月24日(火)



秋田蘭画

18世紀の蘭学興隆の中で誕生した秋田蘭画は、秋田藩主の佐竹曙山、家臣の小田野直武を中心に秋田の武士たちが描いた阿蘭陀風の絵画です。所蔵作品と関係資料合わせて約50件により、東西の美を融合した斬新な絵画様式を創造した秋田蘭画の世界をお楽しみください。

超現実の世界

佐竹曙山《蝦蟇仙人図》江戸時代(18世紀) 絹本着色
三本足の蝦蟇を従え、妖術を使う蝦蟇仙人。腕やすねには筋肉が盛り上がり、足の甲には静脈が見えています。透けるような青色で表した眼球には、毛細血管まで描き込む徹底ぶり。実在しない仙人の姿にリアリティを盛り込む、幻想的世界観にゾクッ！

【観覧料】 一般500円(400円) 大学生300円(240円) 高校生以下無料
※()内は20名以上の団体および秋田県立美術館との相互割引料金
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

【展覧会概要】

前身の秋田市美術館時代から60年以上にわたり収集してきた秋田市立千秋美術館のコレクション約1600件の中から、代表的な作品約200件を1期「秋田蘭画・岡田謙三」、2期「洋画・写真」、3期「日本画」に分けて紹介します。リニューアルにより生まれ変わった展示室を生かし、当館の所蔵品の魅力を余すところなくご覧いただけます。

岡田謙三

岡田謙三は、戦前に叙情的な女性像などで人気を博し、戦後は制作の場をニューヨークに移し、日本的な色彩や自然観が息づく抽象表現で国際的に評価された画家です。今回の展示では、パリ・満州・宮城といった岡田が訪れた土地や日本の自然、文化など、作品制作に影響を与えた事柄に着目し、初期から晩年までの作品を約30件紹介します。

幽玄な色彩美

岡田謙三《朱》1962年 油彩・キャンバス

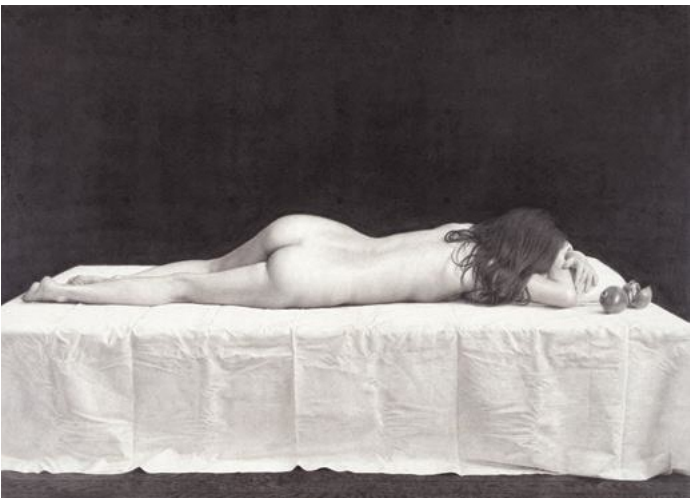
赤富士と金色の雲海のイメージがわいてくる華やかな作品です。印象的な朱色を中心に、緑、黄、白という鮮やかな色の組み合わせは、平安時代から伝統的に用いられてきたもので、日本の色彩美が感じられます。

美術の扉

千秋美術館コレクション

[2期] 洋画・写真 2025年1月10日(金) — 2月9日(日)

2期では、千秋美術館が所蔵する洋画と写真を一堂にご紹介します。洋画では、秋田洋画界の草分けである小西正太郎から、廣幡憲、馬場彬、金子義徳ら秋田ゆかりの洋画家たちの作品が並びます。写真では、日本を代表する報道写真家・木村伊兵衛の「秋田」シリーズの《青年》や《おぼこ・大曲》といった傑作を木村に影響を受けた地元のアマチュア写真家・岩田幸助と大野源二郎の作品とともに展示します。



精緻に描き出された明暗の世界

三浦明範《PILGRIM》2021年 パネルに綿布、カオリン地・シルバーポイント、黒鉛、墨、アルキド樹脂
銀を先端にもつドローイング素材を用いた古典技法シルバーポイントによる作品。驚くほど細かい線の積み重ねにより描き出されたシーツのしわや女性の肌、髪の毛などの表現をぜひ間近でご覧ください。令和5年度新収蔵作品。

巨匠がとらえた
若者の実情木村伊兵衛《青年》1952年
ゼラチン・シルバートリント

木村の秋田取材は1952年から20年にわたり続きました。本作に写るのは、農家の庭先で雑談する3人の若者。変革期を迎えていた農村で、封建的な考え方に飽き足らない若者たちが抱える問題について写真を通して訴えた一枚です。



[3期] 日本画 2025年2月15日(土) — 3月16日(日)



当館所蔵(寄託品を含む)約40件の日本画を3つに分けてご紹介します。①ピックアップコレクション!では、伊藤若冲《雨龍図》、伝 荻津勝孝《秋田街道絵巻(上巻)》の全場面を展示します。②秋田ゆかりの画家たちでは、平福徳庵、百穂父子から昭和・平成までの作家の系譜を、③文人画と近代では、江戸時代の谷文晁、春木南湖から明治以降の日本画までご紹介します。

ちっぽけで弱そうな
ドラゴン

伊藤若冲《雨龍図》1760年代前半 紙本墨画

龍のひょうきんな表情が見る人を楽しませるのはもちろん、体表の鱗をよくみると鱗の境界が白っぽい線になっています。これは吸水性の強い画箋紙が持つ、隣接した墨面同士が混ざり合わない性質を生かした若冲得意の表現ですので、注目してご覧ください!

荒川鉦山の“今”を
伝える畢生の大作!平福徳庵《荒川鉦山真景之図》1890年
絹本着色 個人蔵(寄託品)

徳庵の支援者で荒川鉦山を経営した瀬川安五郎の依頼によるもので、横幅約2メートルと大きく、鉦山の裾野に広がるまちの様子まで詳細に描かれています。出品された第三回内国勸業博覧会の会場でも鉦山町の現状と活気をこの絵が十二分に伝えた様子が想像できます。

